

# 《地区イメージ強度調査》

## 地区イメージ強度調査とは...

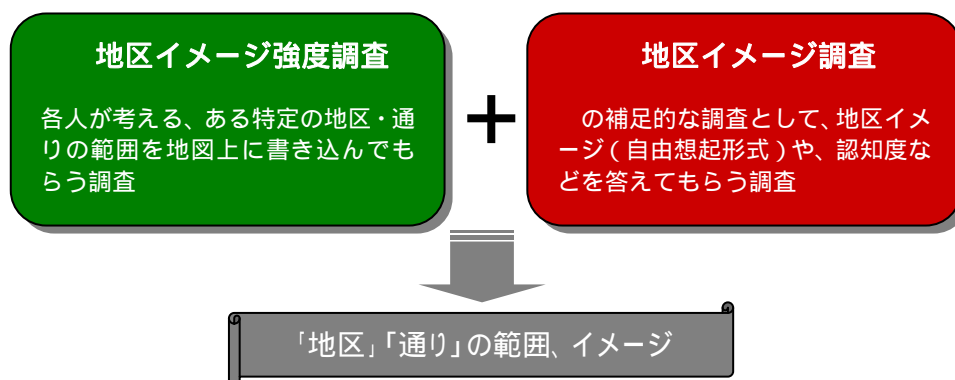
地区イメージ強度調査は、都市のなかである特定の「地区」や「通り」を対象として、多くの人が認識している「地区」「通り」の範囲や、その「地区」「通り」のイメージを明らかにするための調査です。

多くの人に認識されている「地区」「通り」の範囲は、人々にとって重要な意味・役割を持ち、重点的・優先的な整備が望まれると言えます。

人々がイメージする重要な「地区」「通り」の範囲は、必ずしも、行政界による地区区分や道路名称などと一致するとは限らないことから、この調査を通して、人々の実感に即して重要性の高い「地区」や「通り」を活かしたまちづくりが可能となります。

## 地区イメージ強度調査の方法

以下のような2種類の調査を組み合わせることで、地区イメージ強度を明らかにします。



## 《地区イメージ強度調査 (描画線のデジタル化・メッシュデータ化による頻度解析パッケージ)》

地区イメージ強度調査は、弊社で独自に技術開発した手法によって行います。

- 1) ある特定の課題を持つ「地区」や「通り」について、各人が「このあたりだ」と考えている範囲を地図上で示してもらいます。
- 2) 描かれた線分をデジタルデータ化し、示された領域を特定します。
- 3) デジタルの領域データを重ね合わせ、メッシュデータに変換して、頻度分布を把握・分析します。これにより、多くの人が認識している「地区」「通り」の範囲とそのイメージの強さが明らかになります。

## 地区イメージ強度調査で明らかとなる事柄

地区イメージ強度調査を行うことで、以下のような事柄を明らかにすることができます。

ある特定の課題を持つ「地区」「通り」として、多くの人にイメージされる範囲  
「地区」「通り」の範囲を捉える手がかりとなる要素(骨格的地形・地物・歴史的要素等)  
その地区から想起される重要なイメージ 等

## 地区イメージ強度調査の使い方

地区イメージ強度調査結果の活用方法としては以下のようなことが考えられます。

重点地区、重要なエリア・通り等の範囲の設定

(景観計画、観光まちづくり計画、中心市街地活性化計画 等)

人々にとって特別な意味を持つ「地区」「通り」に配慮した都市・農村計画

かつて重視されてきた「地区」「通り」の再生・活用に向けた課題検討

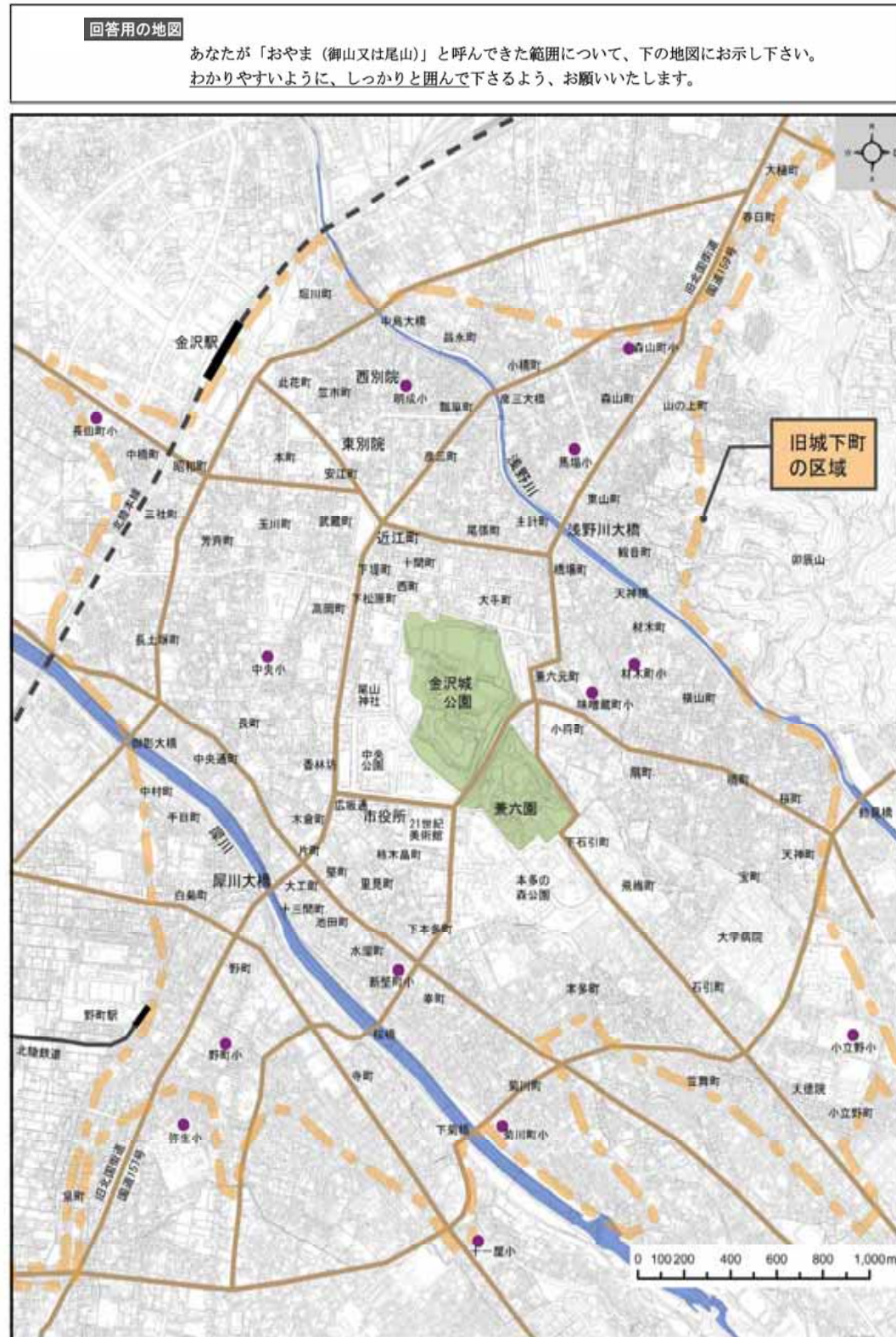
生活実感に即し、それぞれの場所や道が有する性格を尊重した空間デザイン 等

## 地区イメージ強度調査

地区イメージ強度調査は、人々が共通して認識している「地区」や「通り」の範囲とそのイメージ強度を明らかにする調査です。ある特定の「地区」「通り」について、各人が認識する範囲を地図上に描いてもらい、これをメッシュデータとして分析することにより、多くの人が認識している「地区」の範囲（例：歴史的に重要な地区、駅等と一体的な中心市街地、商業中心や賑わいのある地区 など）や、特徴のある通り（優先的に整備すべき通り、広く親しまれている通り・小路 など）を明らかにできます。また、その「地区」や「通り」などを捉える手がかりとなっている、地区の範囲を区切る要素（意識上の境界となっている要素）や通りに共通する要素などを把握することができます。

### 【調査例】

設問～「おやま<sup>(注)</sup>」の範囲記入用の地図の提示（字名、主要施設(道・公園・学校等を記載)～



(注)本調査例の設問については、以下の設問を先行して実施。

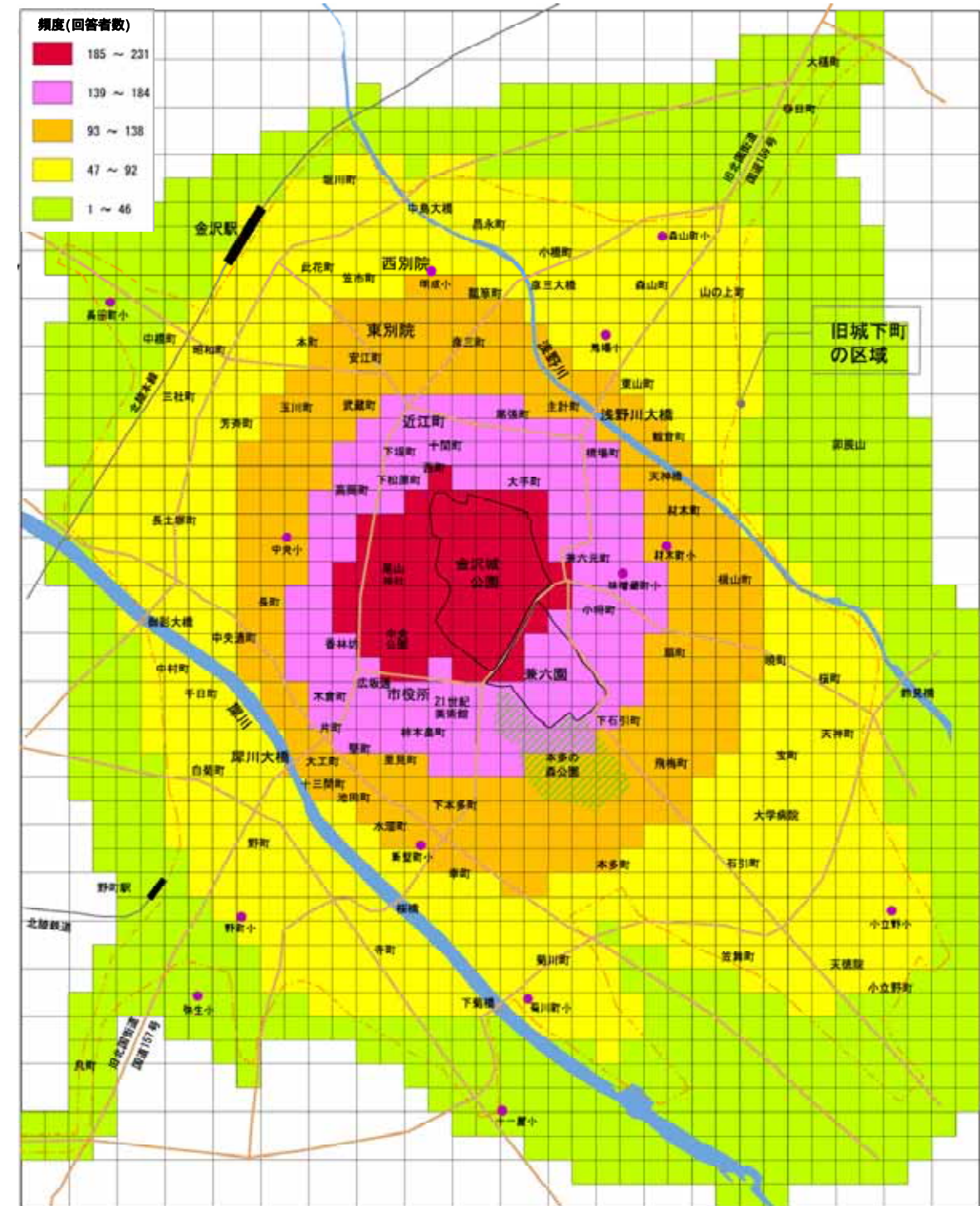
(先行の設問)

『金沢の旧城下町の中心な地区は、かつて「おやま」と呼ばれていました。あなたは「おやま」という呼び方をご存知でしたか。』

詳細は、後述の地区イメージ調査(2)地区認知度調査を参照

### 分析1～「おやま」の範囲の認識(イメージ強度の把握)

記入された範囲を全て重ね合せ、メッシュデータに変換して、頻度分布図を作成します(下図参照)。これにより、多くの人が「おやま」として認識している地区の範囲とその頻度(イメージ強度)が一目瞭然に示されます。



## 分析2～「おやま」の範囲の認識パターン

記入された範囲を個別にみていくと、人々の「おやま」の範囲の認識の仕方を、幾つかのタイプに分けて捉えることができます。

### 【「おやま」の範囲の認識の仕方の3タイプ(大分類)】

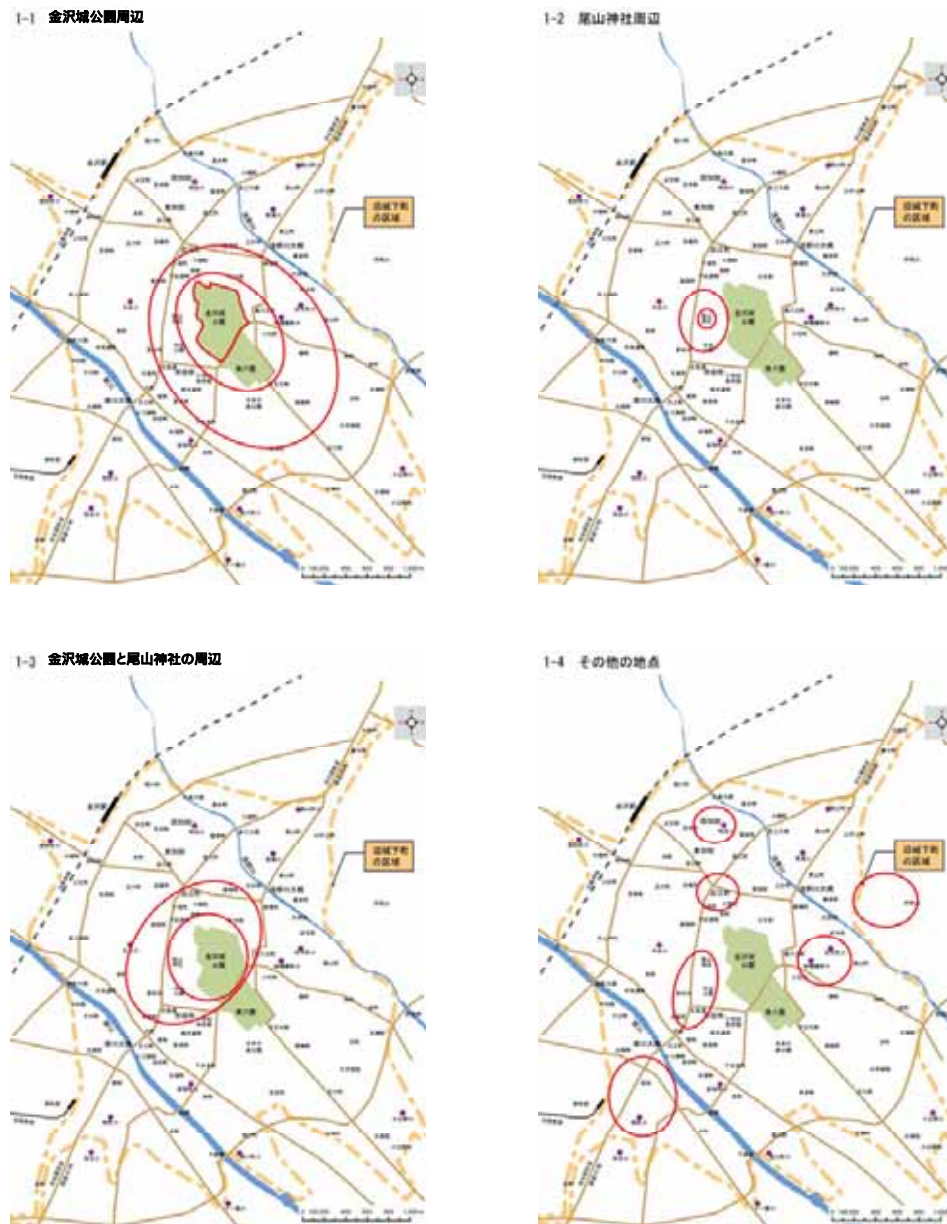
1. **中心拠点型** 「金沢城公園」や「尾山神社」を中心に、その近傍・周辺の比較的狭い範囲をさすもの (145人 41%)
2. **エリア型** 「金沢城公園・兼六園」を含むある程度以上の広がりを持つ地区をさすもの (38人 11%)
3. **境界認識型** 「川」や「旧城下町界」を「境界」として意識し、これらに区切られた範囲をさすもの (86人 25%)

(細分類)

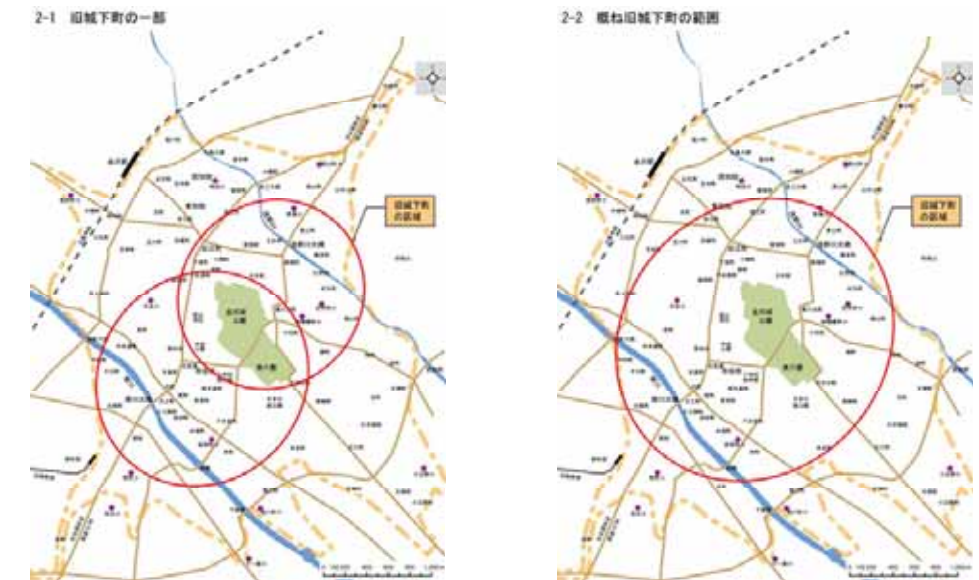
「おやま」の範囲の認識の仕方のタイプ		人	%	「おやま」として記入(認識)された具体的な範囲		人	%
1. 中心拠点型 (金沢城公園や尾山神社とその周辺) 145人(41.4%)	1-1 金沢城公園周辺	58	16.6	1-1-1 金沢城公園のみ	19	5.4	分析3 に例示
				1-1-2 金沢城公園および兼六園の周辺(川を越えない)	39	11.1	
	1-2 尾山神社周辺	37	10.6	1-2-1 尾山神社のみ	20	5.7	
				1-2-2 尾山神社の周辺(金沢城公園・兼六園含まず)	17	4.9	
	1-3 金沢城公園と尾山神社の周辺	24	6.9	1-3-1 金沢城公園+尾山神社(兼六園含まず)	24	6.9	
	1-4 その他の地点	26	7.4	1-4-1 金沢城公園・尾山神社以外の地点を中心とする範囲	26	7.4	
2. エリア型 (金沢城公園を含み一定の広がりを持つ地区) 38人(10.9%)	2-1 旧城下町の一部	23	6.6	2-1-1 いずれか一方の川を越える範囲	23	6.6	
	2-2 概ね旧城下町の範囲	15	4.3	2-2-1 両方の川を越える範囲	15	4.3	
3. 境界認識型 86人(24.6%)	3-1 川を境界として認識	45	12.9	3-1-1 いずれか一方あるいは両方の川まで	45	12.9	
	3-2 旧城下町界を境界として認識	41	11.7	3-2-1 旧城下町全域	41	11.7	
無回答		81	23.1	記入無し	81	23.1	
計		350	100.0		350	100.0	

### 3タイプの範囲認識パターン(模式図)

#### 1. 中心拠点型



#### 2. エリア型



#### 3. 境界認識型



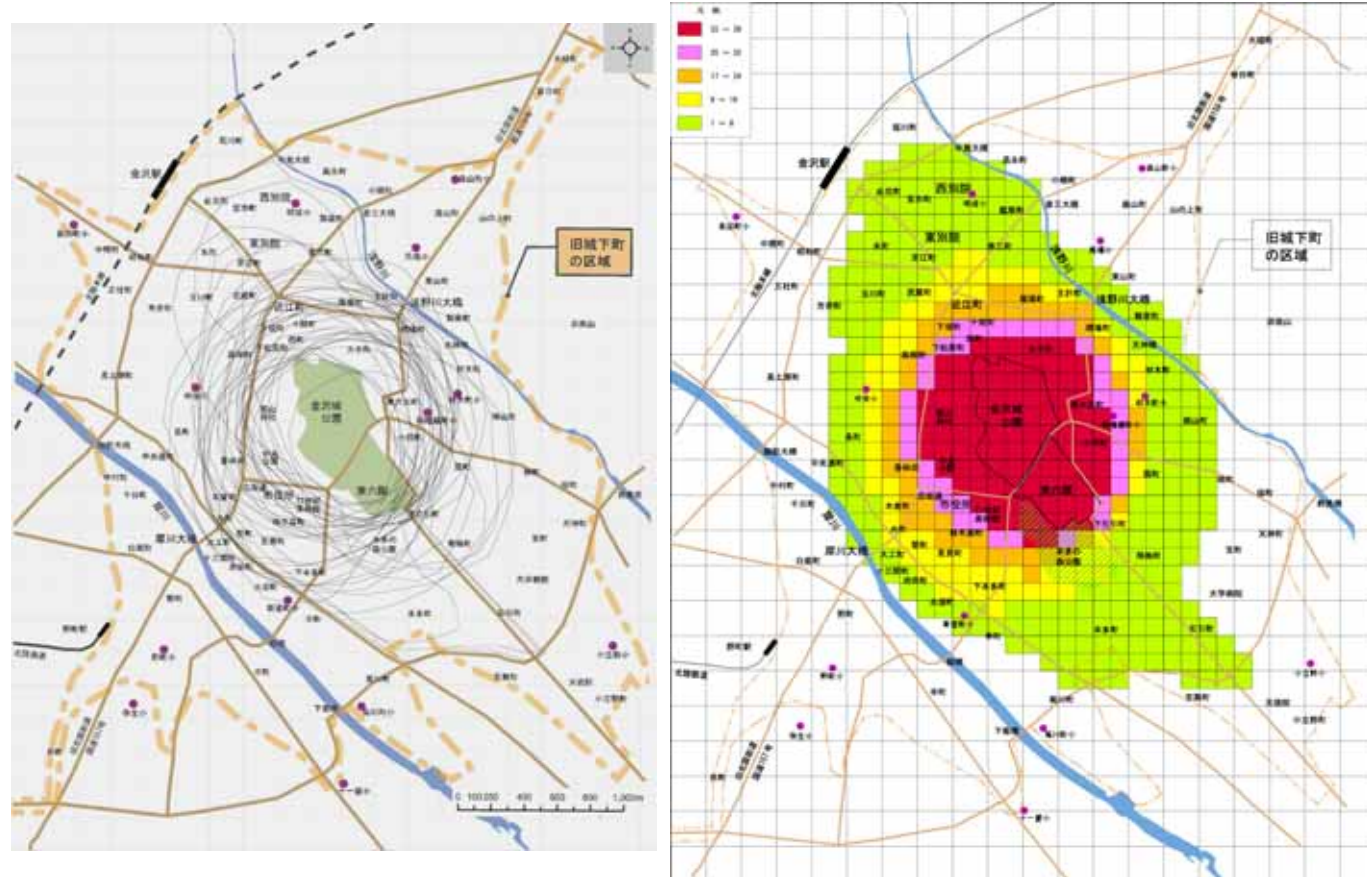
### 分析3～「おやま」として記入(認識)された具体的な範囲の分析(例)

「おやま」として記入(認識)された具体的な範囲について分析することで、その特徴や意識上の境界となっている骨格的な地形・地物や歴史的要素との関係について、より詳細に把握できます。

#### 具体の記入範囲の分析：1-1-2 金沢城公園および兼六園の周辺(川を越えない) (39人)

金沢城公園・兼六園の周辺で川を越えない範囲を「おやま」とするグループの回答者は、西側を概ね旧北国街道に区切られ～西町～大手町～兼六元町～兼六園南端～中央公園～尾山神社付近を連ねる一円を強く認識している(メッシュデータの赤色部分)

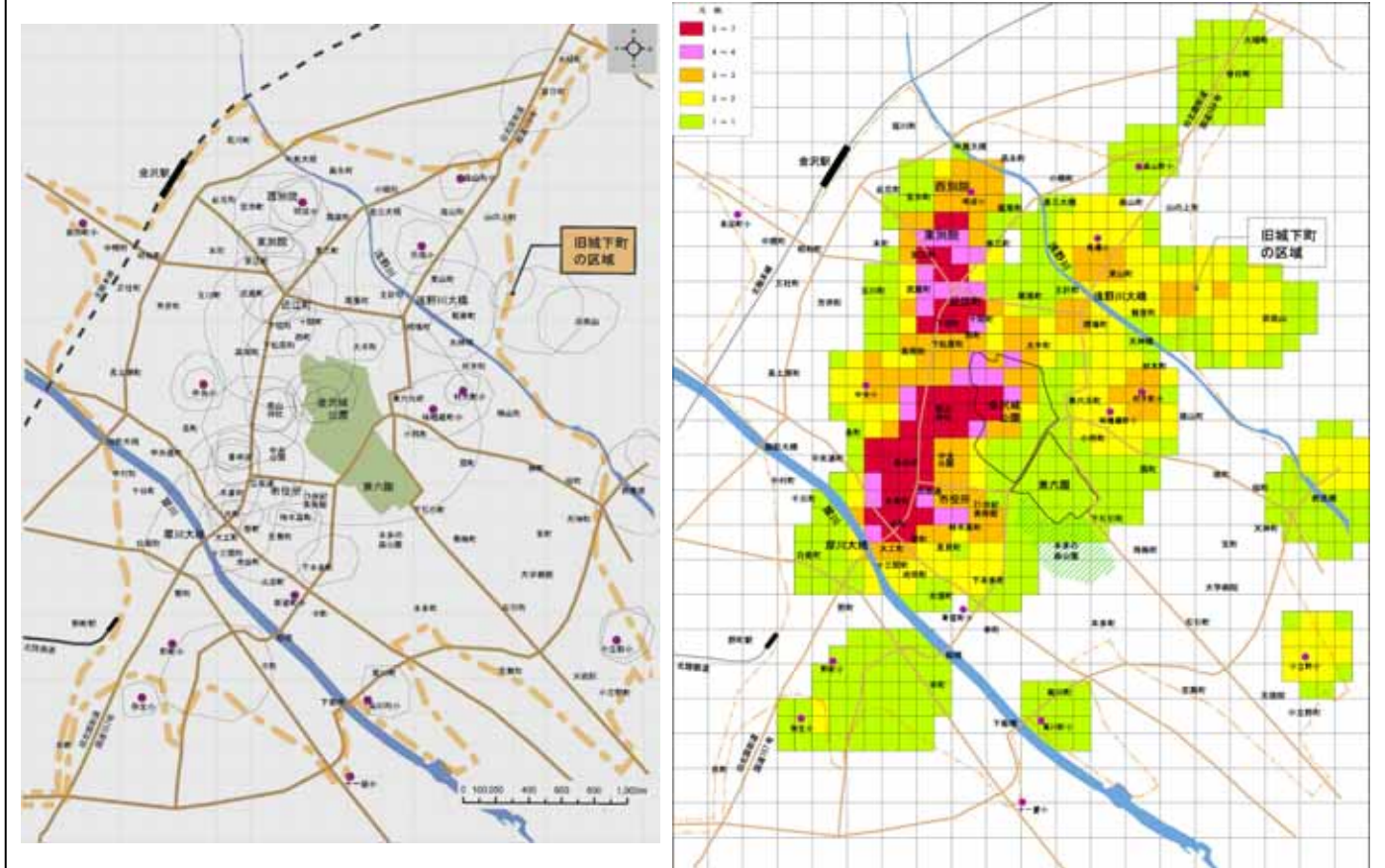
この範囲は、ほぼ同心円状に広がりを見せているが、南方向については、兼六園南端よりも南への広がりを認識している人は少なく(メッシュデータのピンク色・オレンジ色部分が狭い)、都心軸に位置づけられた北・西のエリアに向けて偏心して広がっているという傾向が指摘できる。



#### 具体の記入範囲の分析：1-4-1 金沢城公園・尾山神社以外の地点を中心とする範囲 (26人)

金沢城公園や尾山神社以外の地点を中心とする範囲を「おやま」とするグループの回答者は、商業中心となっている都心軸・北国街道付近を「おやま」の中心として認識している。特に、信仰の地として親しまれている「東別院」から尾山八町のひとつである「近江町・下堤町」付近、都心軸に位置する「尾山神社」「香林坊」「木倉町・片町」付近が、「おやま」の中心として強く認識されている。

また、東別院に近い「西別院」、金沢城の表玄関としての「大手町」、城下町の東方に控える山並みが地域景観を印象づけており茶屋街も立地する「卯辰山・東山」、香林坊・片町と一体的な地域としての「中央公園」から市役所、大工町、尾山八町のひとつである「材木町」なども中心として認識されている。



## 地区イメージ調査 ～ (1) 自由想起調査

地区イメージ調査は、ある地区について想起されることがら、言い伝え・思い出などを自由に答えてもらう調査です。その分析により、多くの人々が認識している「地区」「通り」の捉え方や代表的なイメージを把握し、整備に活かすことが可能となります。

### 【調査例】

自由記入の回答から、「おやま」がどのように捉えられているか、何を意味しているかの特徴を分析



「金沢の外部(いなか)」からみた「金沢(町)」をさす呼び方として、『周辺 - 中心の関係性』を捉えたもの、商業・文化施設や東別院への参詣など『交流や賑わいある都市の中心性』をイメージしているものが多い。

ほかに、「旧城下・旧市内」や、「金沢の事」など、『総称としての金沢』をさすとの認識もみられる。

また、「尾山御坊」や「一向衆・一向一揆」との関わり、「前田氏・富樫氏」との関わりなど、歴史的事象との関わりから「おやま」の意味を捉えている例もあった。

おやまの意味	
金沢の外部から金沢をさす 10件	私は今現在、金石町も金沢市ですが、私の子供のころは金石町だったので、金沢へ行くことをおやまへ行くと言ったので、金沢をおやまと呼ぶのだと思って居りました 旧金沢市内中心部と理解していました。富山県の人には「尾山」と言っておやまをさしていた記憶があります 若い時(結婚前)栗崎に住んでいたため、よく金沢市内へ出かける時、尾山へ行くと言いました。 母の実家は能美郡辰の口なので、母の子供の頃はおやまに行くと言っておやまに時々出るのが楽しみだったと言った話を聞いていました。なかなか(金沢へ)出られない人もあったという事です。 子供の頃、石川郡の人達が金沢へ行くのをおやまに行くと言っていたのを憶えています いなかの人が町の事を「おやま」と言っていた 森本へ嫁に行って、おやま金沢の事 旧の金沢人は金沢の町へ行く時尾山に行くという言葉を使っている方いました。県外の方は金沢へ行くことは「尾山へ行こう」と聞いております 町とか金沢の方であり、この部分と印はつけられません。生まれたときは河比郡だったので、おやまとは金沢の事であり、この地域と区別は出来ません。おやまは町であり、住んでいる所はいなかの意味に使っていたようにおもっています。 尾山神社があるから、旧金沢市全部だと思えます。田舎へ居っていた時でした。今町
商業・信仰などの中心 4件	子供の頃、日曜日になると「おやまに行くよ！」と言って、金沢のデパート丸越・大丸へ連れて行ってもらった。また、尾山くらぶでお芝居もよく見た。主計町、東山、長町 金沢の中心地に行く事を昔は言った。兼六園。旧町名を復活して、ビルとかの高さ制限と、街の景観を守る長い計画性を持った町づくりをしてほしい 子供の頃、金沢の町へ出かける時に、おやまへ行くと言いました 金沢尾山神社等中心に買い物をする事と、高齢者は東別院等寺院におまいりに来る
旧城下・旧市内 4件	旧市内すべてを子供の頃から尾山と言ったので、特別どの町とか決められない。 今後は、旧城下全体を含めて表す 旧市内を対象にしたものと理解している。親の代には良く使われていたと思う。 「おやま」旧金沢市内
金沢の事 6件	金沢の事 昔から親に金沢の事と聞いてました 昔の人は金沢に行く事をおやまと言った 金沢の事を総称してお山と言っていた 叔父さんや叔母さんによく「おやま」に行くと言っていた 特に教わった事が無いので、こら辺だと思って居ります
尾山御坊との関連 6件	尾山御坊があったから おやまごぼうと言われた寺があった場所。東山、寺町、寺院郡及び、浅野川、並木町が自然とマッチして良い。 おやま御坊。前田家を守ったお寺の事、場所はよく分かりません。 馬場では「おやま」とは言っていなかった。昭和41年に袋坂屋へ嫁ぎ、姑から「おやま」と聞いた。「尾山御坊」のこと知った。 尾山御坊があったので「おやま」と名づけられた。町名一つ一つに歴史が感じられ「おやま」の範囲がどの程度なのか判りにくい。 金沢城を尾山城と言った中心。尾山神社と東別院(尾山御坊)を囲む
一向衆との関連 2件	兼六園、東茶屋街、尾山神社。「おやま」は一向衆のとりでだと思います。 一向衆、一向一揆の御堂があった地で、小立野台地の端にあり尾山から、おやまと呼び名がついた。
前田氏・富樫氏との関連 1件	前田利家公がお城を築き町を作ったところ。その頃、野々市は既に富樫氏による町が形成されていました。民謡で良く歌詞に出てきますので参考になります。

## 地区イメージ調査 ～ (2) 地区認知度調査

地区認知度調査は、イメージ強度調査の対象とする特定の「地区」や「通り」が、ある特定の名称と対応している場合に用いる補足的な調査です。

例えば『かつて「」と呼ばれていた「地区」「通り」』『近年「」と呼ばれるようになった「地区」「通り」』などについて、その「」という「呼び方」と「意味」を知っているかどうかを答えてもらいます。

これにより、「」という地区や通りがどの程度認知されているのか（認識率）を明らかにすることができます。

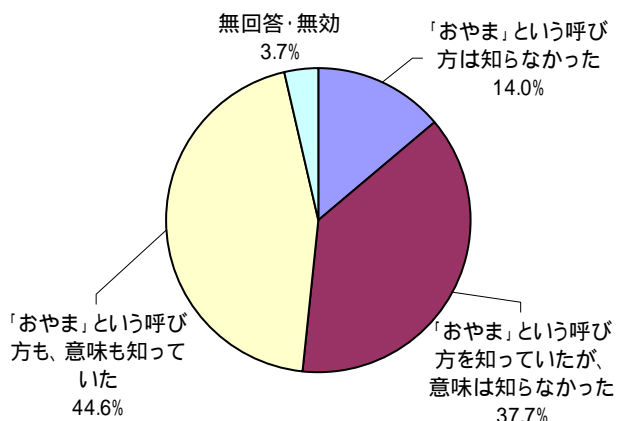
### 【調査例】

#### 設 問

金沢の旧城下町の中心的な地区は、かつて「おやま(御山、尾山と表記)」と呼ばれてきました。今でも『「おやま」へ行く』などと言うことがあるようです。あなたは、「おやま」という呼び方やその意味をご存知でしたか。



#### 回 答



	(人)	(%)
「おやま」という呼び方は知らなかった	49	14.0
「おやま」という呼び方を知っていたが、意味は知らなかった	132	37.7
「おやま」という呼び方も、意味も知っていた	156	44.6
無回答・無効	13	3.7
計	350	100.0

#### 分 析

回答者の半数近くが、「おやま」という「呼び方」も「意味」も認識。

「呼び方」は知らないが「意味」は知っていると合わせると、回答者の約8割が「おやま」という「呼び方」を認識。

かつての旧城下町の中心を指す「おやま」の呼び方は、今も、多くの人に共有されていると言える

居住地別、年代別、居住歴別などのクロス集計により、「おやま」の呼び方の認識度に有意な差があるかどうかの検証も可能。